

平成28年度 年 報



林野庁 北海道森林管理局
釧路湿原
森林ふれあい推進センター

釧路湿原森林ふれあい推進センター 平成 28 年度 年 報

目 次

この1年を振り返って	1
この1年間の取組み	
・自然再生	2
・森林環境教育	8
・その他	16
活動区域及び所在地	18

この1年を振り返って

平成28年は、日本の国民の祝日の一つである「山の日」が初めて制定された年でした。

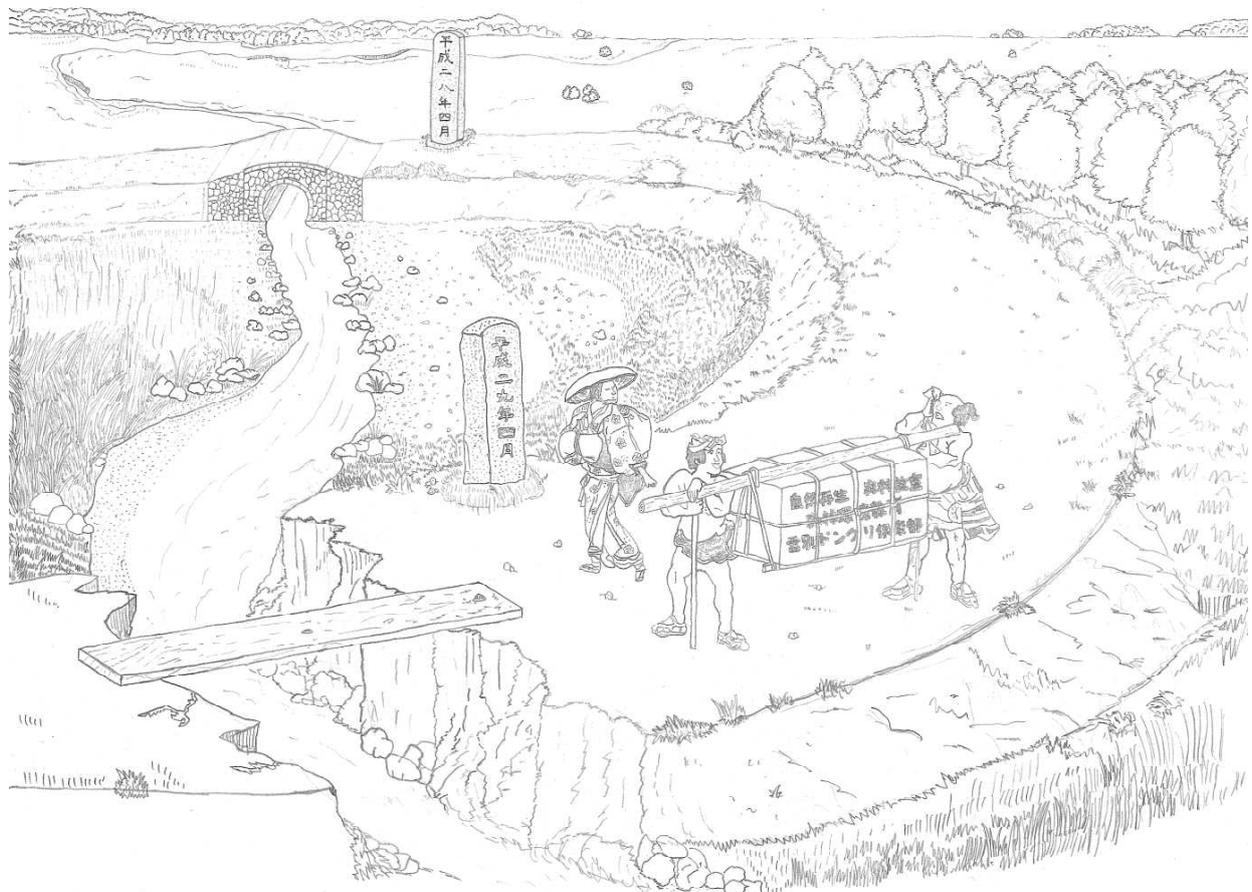
この「山の日」は、「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」日として、各種イベント等でPRに努めてきたところです。

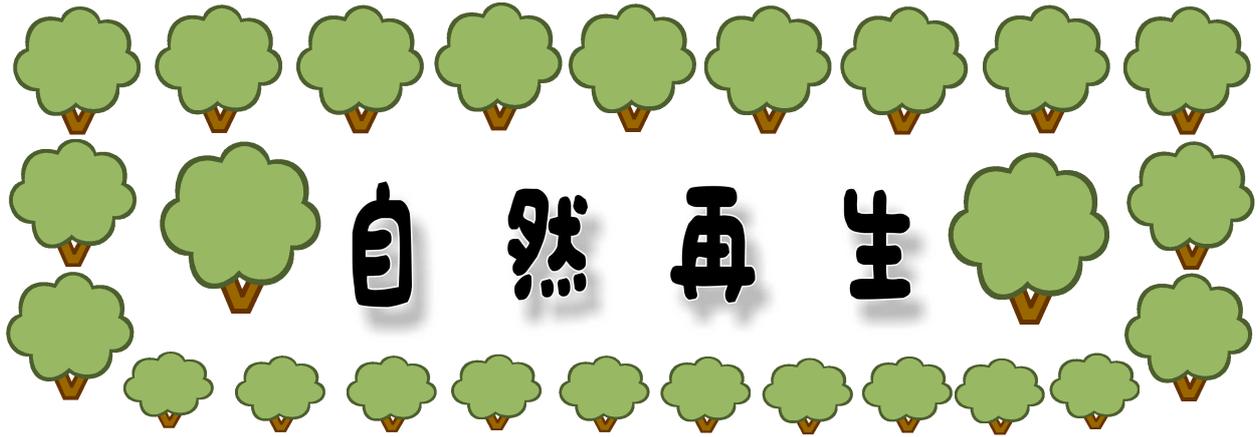
釧路湿原森林ふれあい推進センターにおいても、森林ボランティア作業などを実施する「雷別ドングリ倶楽部」の活動を始め「公募によるボランティア植樹」などの際には山の日制定記念事業と位置づけし、たくさんの地域の方々のご参加をいただきました。

その他、釧路管内の教育機関や地域の関係者と連携した取組を数多く実施しております。

以下に当センターの28年度の取組を年報として取りまとめましたので、ご一読いただければ幸いです。

(所長 志村賢二)





● 平成28年5月12日 釧路湿原自然再生協議会 再生普及小委員会
第3回 再生普及推進のための連携チーム会合に出席

● 平成28年5月28日 植樹イベント「雷別へ植樹に行こう！」を開催

釧路湿原森林ふれあい推進センターは、標茶町雷別地区国有林で植樹イベント「雷別へ植樹に行こう！」を行いました。

このイベントは、新聞、釧路湿原自然再生協議会 再生普及行動計画オフィスが配信する「ワンダグリンダニュース」、北海道森林管理局のホームページ等で参加者を募ったもので、募集締め切り日前に募集定員に達しました。

植樹のために用意した苗木は、ハルニレ、ヤチダモ、ケヤマハンノキの3種類、すべて広葉樹で、本数は200本。

参加した皆さんの奮闘により、予定どおり200本の苗木を植え付けました。

しかし、これで終わらないのが、釧路湿原森林ふれあい推進センターの植樹イベント。

次の作業は、植えた苗木を動物の食害から保護するため、植生保護管（ツリーシールド）の設置を行い、植樹イベントは無事終了しました。



● 平成28年6月23日 釧路湿原自然再生協議会 第27回 再生普及小委員会に出席

● 平成28年9月28日 釧路湿原自然再生協議会 第2回 地域づくり小委員会に出席

● 平成28年10月13日 釧路湿原自然再生協議会 第16回 森林再生小委員会に出席

釧路湿原自然再生協議会 第16回 森林再生小委員会が達古武地域（達古武川上流部）及び釧路地方合同庁舎で開催されました。

森林再生小委員会は、釧路湿原自然再生協議会内に設置されており、森林の再生（野生動物の生息環境修復を含む）に関する実施計画とその実施状況、モニタリング結果等について検討しています。

今回の森林再生小委員会では、環境省が実施している達古武地域（達古武川上流部）の現地視察と「達古武地域自然再生事業」の実施状況等の説明。釧路湿原森林ふれあい推進センターは、実施している「雷別地区自然再生事業」の取組の経緯、今年度の事業実施と調査事項、来年度の事業実施内容等の説明を行い、これらに関する議論が行われました。



● 平成28年12月2日 釧路湿原自然再生協議会 再生普及小委員会
第4回 再生普及推進のための連携チーム会合に出席

● 平成28年12月16日 釧路湿原自然再生協議会 第28回 再生普及小委員会に出席

● 平成29年1月20日 釧路湿原自然再生協議会 再生普及小委員会 作業部会に出席

● 平成29年2月14日 釧路湿原自然再生協議会 第3回 地域づくり小委員会に出席

● 平成29年2月28日 第23回 釧路湿原自然再生協議会に出席

今回の協議会では、①釧路湿原自然再生協議会構成員の公募結果 ②会長及び会長代理の選出 ③感謝状の贈呈 ④協議会の収支報告 ⑤各小委員会開催報告等について報告及び協議が行われました。

釧路湿原森林ふれあい推進センターは、⑤各小委員会開催報告で、第16回森林再生小委員会（平成28年10月13日開催）での、実施状況の説明と議論の結果を踏まえ、平成28年度の事業実施事項として、植栽の実施状況、更新指数の算出結果、食害調査結果等と来年度の実施内容として、広葉樹の植栽、食害対策について報告を行いました。



雷別ドングリ倶楽部

「雷別ドングリ倶楽部」は、雷別地区国有林の自然再生活動（広葉樹の森林づくり）に参加いただいているボランティアの方々の集まりです。

平成19年から活動を始め、10年目となる平成28年度は植樹等の活動を行いました。



第1回 平成28年6月8日 「広葉樹苗木の植樹」

雷別地区国有林で、広葉樹苗木（ハルニレ、ヤチダモ、ケヤマハンノキ）の植樹と野生動物による食害対策として、植生保護管（ツリーシェルター）の設置を行いました。

作業終了後は、前年の植樹箇所へ移動して、苗木の生育状況と野生動物による食害の状況を観察しました。



第2回 平成28年7月6日 「下刈（草刈）」

夏の造林（保育）作業の定番、下刈作業を行いました。

この日、標茶町の最高気温は16℃と低めの気温でしたが、植栽木・天然性の稚樹周辺の下刈と防鹿柵周囲の草刈を行い、参加した皆さんにたっぷり汗をかいてもらいました。





第3回 平成28年8月3日 「釧路川源流部で森林散策」

標茶町雷別を離れ釧路川を遡り、弟子屈町川湯地区に広がる国有林で森林散策を行いました。

屈斜路湖畔側から川湯に向け林道を走り、沿線の「大きなミズナラ」、「キンムトー」、「第二硫黄山」を巡り川湯温泉駅に向い、美留和の水で喉を潤し釧路への帰路につきました。



第4回 平成28年10月26日 「パイロットフォレストで森林散策」

第1回の活動で植栽した苗木、下刈等の保育作業を行った箇所での植栽木の生育状況の確認と防鹿柵内に発生したシラカバの稚樹を観察しました。

続いてパイロットフォレストに移動。高くそびえる望楼から、黄葉の進む広大なカラマツ林の展望を楽しんでもらいました。





第5回 平成29年2月1日 「森林の恵みで工作を楽しもう」

今年度の活動を振り返り、より良いボランティア活動及び雷別地区国有林の自然再生活動ができるように、次年度の活動内容を検討しました。

活動計画策定の後は、松ぼっくり、どんぐり等を材料に工作を楽しみました。





 平成28年5月7日～8日 「木のおもちゃであそぼう！」

4月29日～5月8日の10日間、釧路市こども遊学館（釧路市幸町）で、GWイベント「木のおもちゃであそぼう！」が開催されました。

期間中、木のおもちゃ展や様々な木の工作会が行われ、釧路湿原森林ふれあい推進センターは、イベントの後半5月7日・8日の2日間「ふれあい木工作」に参加しました。

当森林ふれあい推進センターが会場に持ち込んだのは、木製のアイススティック棒、シラカバやミズナラなどをコースターのように輪切りにしたもの。いろいろな形、大きさの松ぼっくり等で、これらを材料に、木工工作を楽しんでもらいました。

また、全期間を通じて会場に設置された「いろんなつみ木つみくす」には、当センターが用意した木製つみ木の「つみっき〜」のほか、数種類のつみ木が用意されており、小さなお子さんが楽しそうに遊んでいました。

釧路市こども遊学館を訪れた多くの皆さんに、木工工作と木製つみ木で、木のぬくもりを体験してもらうことができました。





平成28年7月12日 「厚岸中学校1年生 見学バス遠足」

厚岸町立厚岸中学校1年生の皆さんが、見学バス遠足で普段体験できない自然・文化等に親しむためパイロットフォレストを訪れました。

この日のため、事前に根釧西部森林管理署が制作したDVD「未来へ継がれる森林パイロットフォレスト」を学校で見てもらっています。

現地では、パイロットフォレスト造成時の拠点として建てられ、今も残る旧太田造林事業所の建物内で、パイロットフォレスト、森林の働き、森林と水の関係などの説明を行い、林業体験として、アカエゾマツの人工林で、ノコギリを使用して「枝打ち」作業を行いました。

林内では、カエルやクワガタが登場し、単調になりがちな作業を盛り上げてくれ、枝が落されすっきりしたところで午前の部が終了。

午後からは、パイロットフォレストにそびえ立つ望楼に移動。展望室から、一面に広がるカラマツ林、遠く厚岸方面の眺望を楽しんでもらいました。

最後にパイロットフォレスト内の小さな沢から湧き出る水（厚岸の海に繋がる）を観察してもらい、パイロットフォレストでの見学バス遠足を終了しました。





平成28年9月11日 「しらぬかカミングパラダイス」

9月10日、11日の両日、白糠町白糠南通り商店街を歩行者天国にして、「しらぬかカミングパラダイス」が開催されました。

普段、車の走る車道に露店がずらりと並び、焼き鳥、つぶ焼き等のい〜い匂いが漂っています。

釧路湿原森林ふれあい推進センターも「森の恵みで工作を楽しもう」で、露店の仲間入りです。

当センターの露店には、開始時間の前に、訪れる家族連れがあるなど、けっこうな人気で、小学生の姿が目立ちました。

用意した森の恵み（工作の材料のこと。）を見ていると、人気があったのが、「どんぐり」と「どんぐりの帽子」。（殻斗「かくと」のこと。）

地面に転がっていたドングリが、ちょっと手を加えるだけで、かわいい姿に大変身です。

開始から終了まで、人が途切れることなく、多くの人達に森の恵みの工作で、楽しいひと時を過ごしてもらいました。



平成28年11月13日 「2016 木育・森づくりフェア」

11月12日13日の両日、イオンモール釧路昭和 サンコート広場で、2016「木育・森づくりフェア」が開催されました。

このイベントは、木とふれあう機会を提供し、木の良さ、森づくりの重要性の理解を深めてもらおうと、釧路町村会地域づくり広域プロジェクト環境保全型森づくりプロジェクトチームなどが毎年行っているもので今年で6回目となりました。

林野庁 北海道森林管理局からは、根釧西部森林管理署と釧路湿原森林ふれあい推進センターが「木とのふれあいコーナー」に参加、来場した市民のみなさんに「松ボックリを利用したミニツリーづくり」を提供しました。

これは、松ぼっくりを小さな木にみたくて、細めの木を輪切りにしたコースター状の台座に接着して固定するものです。

主役の松ぼっくりは、カラマツ、アカエゾマツ、ヨーロッパアカマツ、ヨーロッパトウヒ、ストロブマツ、チョウセンゴヨウの6種類。

聞きなれない名前もありますが、釧路周辺の国有林で、当センターが採取したもので、小さいの、大きいの、超大きいの、丸いの、太いの、細長いの、リスにかじられたものと、様々な形のものを用意しました。

会場には家族連れの方が多く来場、なかにはお子さんより、工作に熱の入ったお父さん、お母さんの姿もありました。

なお、会場には、木のマグネットづくり、木の葉のステンドグラスづくりなど楽しい木工体験の他、木の玉プール、木の積み木、木のボールで行うボーリングなどの木製遊具が並べられており、小さなお子さんが楽しそうに遊んでおり、大人気でした。

なお、来場者数が昨年より多かったようで、多くの方に、木の良さ、森づくりの重要性を理解してもらえたことと思います。



平成28年12月3日 「白糠町白洋大学・白糠町ふるさと未来塾交流事業」

白糠町社会福祉センターで、「白糠町白洋大学・白糠町ふるさと未来塾交流事業」が開催されました。（主催 白糠町教育委員会）

この交流事業は、高齢者と子どもがふれあい、交流することによって、生活や遊びなど、昔と今の様々な違いを学び合うとともに、互いを思いやる気持ちを養うのが目的です。

今回は、午前中は昔遊び交流。午後からがクラフト交流で、釧路総合振興局森林室さんが「木の葉のステンドグラス作り」、釧路湿原森林ふれあい推進センターが「鳥の巣箱作り」のそれぞれ講師として参加しました。

当センターが巣箱の材料として、用意したのは、北海道の郷土樹種トドマツの板。「この板を見てください。何の木か分かりますか？」

（板に注目して）「トドマツ」と声があがります。（さすが白洋大学）

「ノコギリを使って、板を6つの部品に切断します。・・・カナヅチで釘を打って完成です。」と作り方の説明が終わると、一斉に「ギコギコ」「トントン」と会場はにぎやかに。静かに作業を行っている「木の葉のステンドグラス作り」とは対照的です。

また、ノコギリの作業が進むにつれ、板の切り口とノコグズから木の香りが会場内に広がります。

作業が順調にいつている時は「ギコギコ」と「トントン」が規則正しいリズムで心地よいのですが、音のリズムがくるった時と突然鳴り止んだ時は、トラブル発生で「すいません。」と声がかかります。

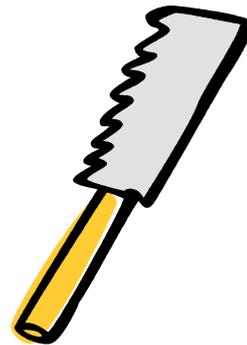
ここが講師の腕の見せ所。具合の悪い箇所を見て、手際よく作業を行い「これでどうですか？」とお手伝いを行います。

この「すいません。」と「これでどうですか？」を繰り返し、少しずつ巣箱らしい形になってきました。

参加者の皆さんも作業に慣れてきたようで、時間内になんとか完成にこぎつけることができました。

今回のクラフト交流で、高齢者の方と子ども達が協力して、楽しそうに巣箱を作る姿を見ていると、ふれあいと交流は十分に図ることができたと思います。

さて、完成した巣箱にどんな鳥がやってくるか楽しみです。



平成28年12月8日
平成29年1月25日

「標茶小学校5年生 環境レンジャー出動！」

標茶町立標茶小学校5年生の授業で行われたのが、総合的な学習の時間で取り組んでいる「環境レンジャー出動！」

この活動は、釧路湿原の現状について知り、様々な観点から湿原保全・再生の取組について調べているものです。

特に湿原が減少していることに大きな関心があるようで、「湿原のはたらき」「植物の保護」「動物の保護」「森林の再生」「湿原の再生」「河川の復元」の6つのグループに分かれて、それぞれ疑問に思ったこと等を、本やインターネットを使って調べ、自分たちにできることはないか課題意識を持ちながら、進めているそうです。

今回の授業には、児童のみなさんの質問への回答とアドバイスのため、講師として北海道環境財団、環境省からは、釧路湿原自然保護官事務所、北海道開発局からは、釧路河川事務所、そして、北海道森林管理局から釧路湿原森林ふれあい推進センターが参加しました。

当センターが担当したのは、当然「森林の再生」グループです。とりまとめている内容を聞いてみると、森林と湿原の水の関心に興味があるようです。

そこで、地図と衛星写真を使い、釧路湿原周辺の川と森林の位置を説明して、釧路湿原の水が広大な地域から集まっていること。

川の上流に森林があることを確認してもらい、森林の持つ機能、降った雨水の行方等の説明を行いました。

森林が身近にあることを感じてもらうため、地元標茶町の森林を例にして、森林の有無で周辺や下流域の環境がどう変化したかをパイロットフォレストの造成前後の違いで。実際に森林の再生を行っている雷別自然再生事業地は、釧路湿原から離れた場所ですが、雷別の森林に降った雨が森林の土壌をとおり、湧き出し川になり、枯れることなく、安定した水量で、シラルト湖に注いでいることを説明して、森林と水の関係の理解を深めてもらいました。

さて、今日の授業を踏まえ、取りまとめた学習の成果が1月25日の地域参観日で発表と意見交流会がおこなわれました。

「森林の再生」グループは、釧路湿原への土砂流入と湿原周辺や河川流域にある森林との関係を調べ、森林の働きに注目したようで、図を使って、はげ山と森林に降った雨水の行方を比較して、森林の持つ土砂流失を防ぐ働きを解説。

釧路湿原周辺では、土砂流失を防ぐ森林が減少したことにより、湿原への土砂流入が増えていること。減少した森林を再生するため、ボランティアの人達が植林や木を育てるため保育活動を行っていること。

など現状を説明。まとめは、「森林と湿原は密接な関係にあるが、森林が減少していることで、湿原への土砂流入が増え、湿原の乾燥化が進み、湿原の面積が減少している。減少を抑えるため、地域に住んでいる私達が森林を作り、湿原を守ることが大切。」といった発表でした。

また、「湿原の再生」グループからは、「湿原を再生するためには、面積の減少をおさえ、森林を増加させ、湿原を守っていくことが大切です。」と発表があり、意見交流では、「森林の持つ機能が理解できた」「木を植えることが重要」「間伐とはどのような作業ですか」といった意見・質問がだされていました。

身近な釧路湿原の現状を調べることで、森林の持つ機能や森林の重要性を再認識してもらえたことは、標茶町雷別で森林再生を行う当センターとして、大変うれしいことであり、森林再生の励みになりました。



なかちやんべつ

標茶町立中茶安別小中学校学校林
るんるんフォレスト

標茶町市街から南東へ約15km、酪農地帯にある中茶安別小中学校は全校児童生徒26人（小学生19人、中学生7人）の小中併置校です。

学校の西方約2kmの位置にある森林が、中茶安別小中学校の学校林（愛称「るんるんフォレスト」）で、同校では学校林を活用した森林環境教育に取り組んでおり、森林環境教育年間指導計画に基づき、様々な自然体験学習が行われています。

釧路湿原森林ふれあい推進センターは、平成18年度から学校林を活用した授業の協力を行っています。

平成28年度は、春・夏・秋の年3回の学校林活動を予定していましたが、夏の活動（学校から近い、パイロットフォレストで実施予定。）は、台風の影響で中止となりました。（残念）



平成28年5月18日 「春の学校林活動」

今回の活動は、散策路を歩きながら樹木観察を行いました。

学校林は、カラマツ、トドマツの針葉樹人工林のエリアとミズナラが主体の広葉樹のエリアがあり、約20種程度の樹木があります。

この時季、木々の葉は出たばかりで小さいか、まだ出ていないので、葉の観察はできません。

観察のポイントとなるのは、木の幹で、「色は灰色で縦に裂けている」といった具合に、樹皮の色や形から特徴を見つけて、木の名前を確定していきます。

簡単な作業のようですが、全部同じ木に見えたり、同じ木なのに違う木に見えたりと難しいものです。

さて、木の名前をいくつかおぼえることができましたか？





平成28年10月24日 「秋の学校林活動」

今回は、小学生低学年（1）、小学生高学年（1）、中学生（2）の4グループに別れて活動しました。

平成26年の活動から、学校林の地図を作るため、カラマツ植栽地、学校林内の道路、散策路の測量を行ってきました。

測量の結果を製図しましたが、紙に表示されるのは点と線だけ。カラマツ林の形、道の線形はわかりますが学校林のイメージが伝わってきません。

そこで、人工林だと植栽年の違い（木の大小）、場所（林地と湿地）によつての樹種の違い等、学校林の特徴がわかるように、絵によつて表現することにしました。

今回の活動では、絵地図作製のための樹木・植生調査を中学生グループが行いました。

測量した散策路を歩きながら、測量したポイントを基準に「カラマツが植栽されている」「ミズナラが主体の広葉樹林」「水辺の近くでハンノキが多い」「木の下にはトクサが生えている」「ツリーハウスが建っているのが測点19」などセンター職員の見聞を聞きながら、学校林の様子を測量図に書き込んでいました。

小学生は、学校林の広場付近で、学校林にも多く、標茶町の木にもなっているミズナラを教材にしての活動です。

高学年グループの活動は「木の冬ごもり」。動くことができないミズナラが、どんな寒さ対策をして冬を越すのか？を 枯葉、冬芽、年輪等を観察して。

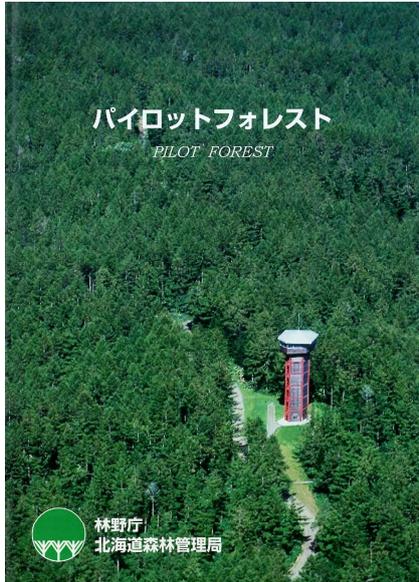
低学年グループの活動は「どんぐりを使った活動」。地面に落ちたどんぐりを拾い集め、特徴を観察。（今年のどんぐりは、不作で実の小さい物が多いようです）地面に埋めて春になると芽をだすか？などを秋の学校林で、それぞれ学習しました。

今回実施した植生調査の記録は、美術部が加筆・彩色等を行い、完成品はパネルにして学校の廊下に展示される予定です。



パイロットフォレスト

昭和31年、標茶町と厚岸町にまたがる広大な荒野に、大森林を造るパイロットフォレスト造成計画が始まり、平成28年は60周年になりました。



過去の記録を見ると、40周年、50周年といった節目の年には、記念式典行事、記念誌の発行、記録映画の撮影等が行われていたようです。

40周年には、記念フォーラム、森の音楽祭が行われ、記念フォーラムには、標茶町出身の女優さんも参加しています。

50周年には、育樹祭や利用施設の整備が行われています。

さて、60周年を向えた今年のパイロットフォレストは？
記念行事もなく、昨年までは間伐が盛んに行われ、チェーンソー、重機、丸太を積んだトラックのエンジン音でにぎやかだったのですが、今年は間伐がないようで、静かな森林があるだけです。

この静けさのお蔭で、普段なら聞こえない音を聞くことができました。

その音は、「クウウ クワッ クワッ・・・」と遠くから聞こえてきます。

何かわかりますか？

タンチョウの鳴き声です。

タンチョウは、釧路湿原が有名ですが、パイロットフォレストでも、運が良ければその美しい姿をみることができます。

パイロットフォレストは、幾多の困難を克服し、広大な森林を作り上げたことが注目されがちですが、タンチョウの生息環境維持のため、「別寒辺牛タンチョウ生息保護林」に設定されている区域があります。



「別寒辺牛タンチョウ生息保護林」

所在地：北海道厚岸郡厚岸町、川上郡標茶町

面積：2,411.59ha

設定年月日：平成5年4月1日
(平成10年4月1日一部拡大)

設定目的：タンチョウの繁殖地、生息地の保護を図り、併せて学術研究に資する。

今年は、パイロットフォレストでタンチョウの姿を多く目撃しました。
いつも、一瞬なので写真を撮ることができなかったのですが、パイロットフォレストの研修棟前に
居た2羽の撮影に成功しました。

(姿を確認した時は、至近距離だったのですがカメラを探し、撮影の準備をしている間に、歩いて
遠くに行ってしまう、近づくと飛んで行ってしまいました。)



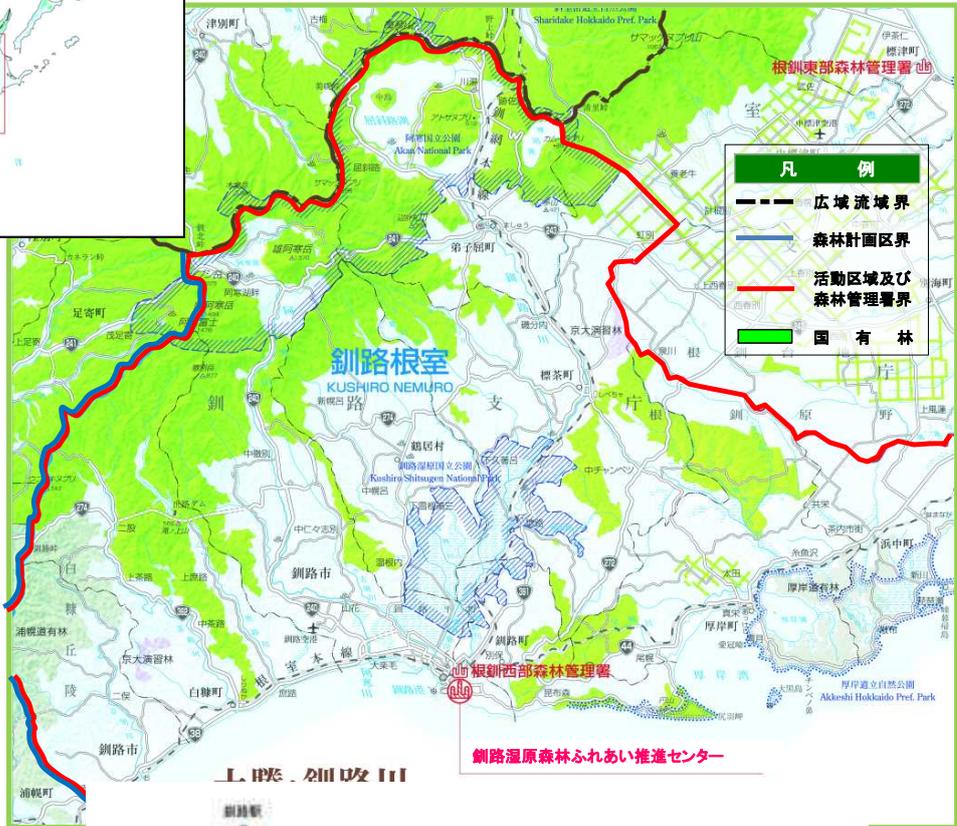
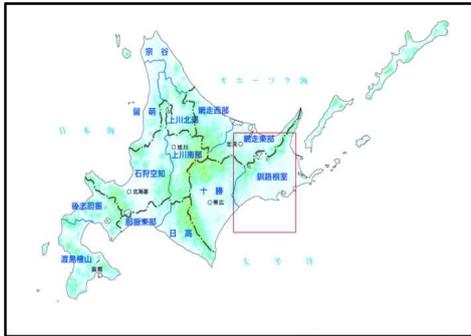
この飛び去った2羽のタンチョウ。

ひょっとするとパイロットフォレスト60周年のお祝いと、別寒辺牛タンチョウ生息保護林設
定のお礼に、研修棟を訪ねてきたのかもしれない。

写真の撮影をしなくて、様子を見ていればよかったかも？

活動区域及び所在地

釧路総合振興局管内の釧路市、釧路町、厚岸町、浜中町、標茶町、弟子屈町、鶴居村、白糠町の1市6町1村が当センターの活動区域です。



国民の森林・国有林

林野庁 北海道森林管理局
釧路湿原森林ふれあい推進センター

〒085-0825 北海道釧路市千歳町6番11号

【IP】050-3160-5787 【TEL】0154-44-0533

【FAX】0154-41-7305

【E-Mail】h_kushiro_f@rinya.maff.go.jp

【URL】http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kusiro_fc/index.html

